

⑤4 那覇空港滑走路増設事業

受賞機関 内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所

キーワード 工程短縮、環境保全措置、生活の足

全建賞審査委員会の評価ポイント

那覇空港滑走路の増設事業。空港内での不発弾発見による既存滑走路の閉鎖に対し、第2滑走路の運用により、島嶼県である沖縄県民の「生活の足」を失うことを回避できた点が、当初の整備目的の一つである滑走路閉鎖時の代替性が発現したものと評価された。

1. はじめに

那覇空港滑走路増設事業は、将来の航空需要に適切に対応するとともに、沖縄県の持続的振興発展に寄与するため、また、将来に亘り国内外航空ネットワークにおける拠点性を発揮できるよう、那覇空港に2本目の滑走路を整備するもので、平成26年1月に工事着工し、令和2年3月26日に供用開始した。

2. 事業の概要

本事業は、既設A滑走路の1,310m沖合に護岸延長8.5km、面積160haの埋立地を造成して延長2,700m、幅60mのB滑走路を整備するものである。工期は、当初7年を見込んでいたが地元沖縄県の強い要望により実質5年10ヶ月に短縮した。



那覇空港滑走路増設事業概要

工程短縮のため、埋立地を6工区に分割し、締め切りが完了した工区から順次埋立てを行い、約1,000万m³の埋立工事を約4年間で完了させた。そして、舗装工事は、埋立工が完了した工区から順次実施するとともに、施工機械の大量投入や夜間作業などにより工程短縮を図った。一方、工事区域周辺には、サンゴ類や海藻類などが豊富に分布しており、自然環境への配慮が求められた。主な環境保全措置として埋立てにより消失するサンゴを施工区域外に移植した。移植にあたっては、各サンゴに適した効率的な移植工法を選定し、大規模移植を約2年で完

了させた。

サンゴ種類と移植手法

種類	対象	手法
小型サンゴ	ミドリイシ類等	ボンド法
	アオサンゴ	
大型サンゴ	大型塊状ハマサンゴ	移築工事による移植
枝状サンゴ群集	ユビエダハマサンゴ	サンゴ群集移植法



移植したサンゴ類

3. 事業の成果

新滑走路の供用により、滑走路処理容量（年間を通じて安定的に運用できる発着回数）は13.5万回/年から24万回/年に拡大した。処理容量の拡大により、旅客需要への対応や定時運行が実現され、沖縄の観光や物流の活性化、県内離島の振興に大きく貢献するものと期待される。また、B滑走路が供用されたことで、不測の事態により片方の滑走路が使用できなくても、残りの1本で運用可能となる。実際、B滑走路の供用後間もなく、空港内の不発弾発見によりA滑走路が閉鎖されたが、B滑走路で運用することにより空港機能が確保された。島嶼県である沖縄県民の「生活の足」が失われなかったことはB滑走路の効果が発現されたと考えられる。

4. おわりに

那覇空港の令和2年度の旅客数は約658万人と、令和元年度の2,061万人から大幅に減少した。新型コロナウイルス感染症の収束後は、沖縄の豊かな観光資源を求めて国内外からこれまで以上に来訪し、本事業の整備効果が十分に発揮されることを期待する。

賛助会員 あおみ建設(株)、いであ(株)、(一財)沿岸技術研究センター、五洋建設(株)、世紀東急工業(株)、東亜建設工業(株)、東洋建設(株)、日本工営(株)、みらい建設工業(株)、若築建設(株)